



2022年9月26日

株式会社 阿波銀行

有限会社石井養豚センターの「SDGs 宣言書」策定について
～ お客さまの SDGs 達成への取組みを幅広くサポートします ～

阿波銀行（頭取 長岡奨、本店：徳島県徳島市）は、SDGs の達成に向けて取組む企業を積極的に支援するため、「あわぎん SDGs 対応度診断サービス」を取扱っています。今回、有限会社石井養豚センター（代表取締役 近藤 用三、本社：徳島県名西郡）が、当サービスを通じ、「SDGs 宣言書」を策定されましたので、お知らせいたします。

SDGs や ESG への関心が高まるなか、経営課題の発見や新規事業の創出、企業イメージの向上に繋がることから、多くの企業が SDGs 経営に取組み始めています。

当行は、SDGs の達成に向け、企業の方々と一緒に取組む伴走支援を行っています。今後さらに、お客さまの SDGs 達成に向けた支援を通じて地域経済の発展や産業振興に貢献し、魅力ある持続可能な地域社会の実現に向けて取組んでまいります。

【企業概要】

企業名	有限会社石井養豚センター
所在地	徳島県名西郡石井町高川原字高川原 2379 番地
代表者	近藤 用三
業種	養豚業
設立	1969年5月14日

○あわぎん SDGs 対応度診断サービス

当サービスは、SDGs の達成に向け取組む企業をサポートするため、①SDGs 対応度診断チェックシート（※）によるお客さまの取組状況の評価（評価レポート作成）、②現状認識（評価レポート）を踏まえ、お客さまとの対話による具体的な取組み内容（SDGs アプローチシート）の策定、③環境・社会・経済の3側面でのアプローチシートを基にした「SDGs 宣言書」の策定、をご提供するものです。

また、「SDGs 宣言書」策定後も、取組み内容の継続的なサポートや再評価等により、SDGs の達成に向けた実効性の高い取組み支援を行ってまいります。

※本サービスで使用するチェックシートは地域の課題等を盛り込み、SOMPO リスクマネジメント株式会社と当行が共同開発したものです。



有限会社石井養豚センター 代表取締役 近藤 用三

当社は、国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）に賛同し、持続可能な社会の実現に向けた積極的な取り組みを行ってまいります。

項目	テーマ	取組み内容	①取組みと②数値目標	SDGsのゴール	
社会・経済	人材育成・働きがいシニア人材の活用	全社員に対し、職務や役割に応じた研修やライフプラン研修等を実施、人材育成とその担い手を育てます。定年後も継続して働ける機会を創出します。	① 定年(60歳)後も、就業する意欲のある社員の雇用を継続		
			② 2027年までにシニア人材5名採用		
環境・経済	環境配慮型サービス・製品の提供	独自の省エネ型糞尿処理施設を備え、発酵処理したものを「スター堆肥」として販売します。食品工場から出る食品残さ、食品副産物を使用し、リサイクル飼料化することで、フードロスに貢献します。	① 排出される糞尿を発酵させ堆肥化することで廃棄物の削減「パイロ・リキッドフィーディングシステム」を活用し、食品工場の食品残さ・副産物をオリジナル飼料としてリサイクル		
			② 2027年までにリサイクル飼料の品質向上		
環境・経済	生物多様性への配慮	持続可能な社会の実現のため、自社の事業において生物多様性への配慮に努め、豚の健康管理に努めます。	① 飼料の生産工程の中で発酵処理を実施		
			② 2027年までに豚の呼吸器官・消化器官の良化を促進し生産性向上		
環境・社会・経済	リスクマネジメントの実施	持続的な事業活動のために自社の業務において発生しうるリスクを認識し、あらゆる対策に努めます。	① 取組みの担当部署、担当者を設置しリスクマネジメントに関する研修の実施 ② 年4回研修を実施		

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsとは

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。